EXILIM

液晶デジタルカメラ

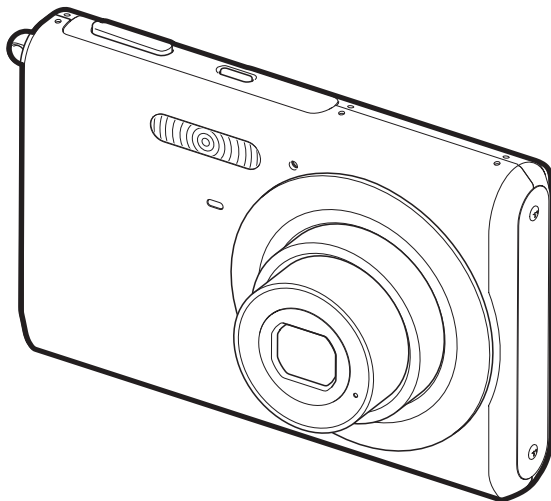
EX-Z60

取扱説明書
（保証書付き）

J　Z

ごあいさつ

このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- 本機をご使用になる前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書はお読みになった後も、大切に保管してください。
- 本製品に関する情報は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト（http://dc.casio.jp/）またはカシオホームページ（http://www.casio.co.jp/）でご覧になることができます。

CASIO®

K815FCM1PKC

はじめに

付属品の確認

箱を開けたら、まず以下の付属品が全部そろっているかどうかをご確認ください。もし、これらの付属品が全部そろっていなかった場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

目次

再生する 93

消去する　113

ファイルの管理について　115

その他の設定について 121

メモリーカードを使用する 131

プリント（印刷）する　136

パソコンでファイルを見る　145

パソコンでファイルを活用する 157

付録 169

あらかじめご承知いただきたいこと

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 万一、Photo Loader、Photohands使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 取扱説明書に記載している画面やイラストは、実際の製品と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■液晶パネルについて

液晶モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高精度な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%未満の画素欠けや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

■著作権について

個人で楽しむ場合などのほかは、画像／動画フォーマットファイル、音声／音楽フォーマットファイルを権利者に無断で複製することは著作権法や国際条約で固く禁じられています。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず権利者に無断でネット上で記載したり、第三者に配付したりすることも著作権法や国際条約で固く禁止されています。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

- SDロゴは登録商標です。
- Windows、Internet Explorer、Windows MediaおよびDirectXは米国マイクロソフト社の商標です。
- MacintoshおよびQuickTimeは米国アップルコンピューター社の商標です。
- MultiMediaCard™は、独Infineon Technologies AG社の商標であり、MMCA(MultiMediaCard Association)にライセンスされています。

- Adobe、Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。
- Photo Loader、Photohandsはカシオ計算機（株）の著作物であり、上記を除き、これにかかわる著作物およびその他の権利はすべてカシオ計算機（株）に帰属します。

本機の特徴

- **有効画素数600万画素**
  CCD総画素数637万画素の高画質CCDを搭載。
  きめ細やかな高画質画像が撮影できます。
- **2.5型TFTカラー液晶モニターを搭載**
- **8.3MBメモリーを内蔵**
  メモリーカードを使用しなくても撮影ができます。
- **ダイレクトONボタンを搭載（33ページ）**
  撮りたいときは【●】（REC）、見たいときは【▶】（PLAY）を押すだけですぐに希望のモードで起動できます。
- **easy（簡単撮影）モードを搭載（43ページ）**
  難しい設定を心配せず、手軽に撮影することができます。
- **12倍ズームを搭載（46ページ）**
  光学ズーム3倍／デジタルズーム4倍
- **フラッシュアシスト機能を搭載（51ページ）**
  フラッシュ撮影時のフラッシュ光量の不足を補正し、明るい画像を撮影することができます。
- **トリプルセルフタイマーモードを搭載（52ページ）**
  セルフタイマー撮影を自動的に3回繰り返すモードを搭載しています。

- **オートマクロ機能を搭載(57、59ページ)**
  オートフォーカスモードに設定していても、オートフォーカスモードの範囲よりも近距離に被写体があった場合は、自動的にマクロモードに切り替えます。
- **クイックシャッター機能を搭載(58ページ)**
  シャッター半押しによるオートフォーカスが完了する前に、シャッターを全押しすると、オートフォーカスを作動せずに撮影することができます。オートフォーカスにかかる時間が削減できます。
- **オートフォーカスエリアの切り替え機能を搭載(58ページ)**
  オートフォーカスのエリアを"[::] マルチ"に切り替えることにより、9つのポイントを同時に測距して、最適なピント位置をカメラが自動的に判断することができます。
- **3つの連写モードを搭載(66ページ)**
  通常の連写以外に、高速の連写やフラッシュを発光させることができる連写モードを搭載しました。
- **ベストショット機能を搭載(67ページ)**
  あらかじめ収録されているシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、選んだシーンに合わせてカメラの設定が切り替わります。簡単に綺麗な写真を撮影したいときに便利です。また、ブレ軽減、高感度などの新シーンが追加されています。本機ではワンタッチでシーンを呼び出せる【BS】(BEST SHOT)ボタンを搭載し、さらに使いやすくなっています。
- **ビジネスショット機能を搭載(72ページ)**
  名刺や書類、ホワイトボードなどを斜めから撮影しても、正面から撮影したように自動的に補正します。
- **よみがえりショット機能を搭載(74ページ)**
  古く色あせた写真を撮影、補正して、最新のデジタル写真として蘇らせることができます。
- **音声付きムービー撮影機能を搭載(76ページ)**
  VGAサイズ、30fps、Motion JPEG準拠
- **画像撮影後、続けて音声も録音可能な音声付き静止画撮影モードを搭載(78ページ)**
- **音声を録音することができるボイスレコード機能を搭載(80ページ)**
- **リアルタイムRGBヒストグラム機能を搭載(81ページ)**
  ヒストグラム表示を確認しながら露出の調節ができます。難しい露出条件でも、意図した露出の画像が手軽に撮影できます。
- **斜めから撮影した黒板やポスターを正面から撮影したように補正するアングル補正機能を搭載(97ページ)**
- **退色してしまった古い写真の画像を補正することができる退色補正機能を搭載(98ページ)**
- **モーションプリント機能を搭載(102ページ)**
  本機で撮影した動画から印刷に適した静止画を作ることができます。静止画のレイアウトは9コマと1コマの2種類です。

- **カレンダー表示が可能(104ページ)**
  1ヶ月分のカレンダー表示の日付上に、その日に記録した最初のファイルを表示させることができ、再生したいファイルを素早く探すことができます。
- **カメラとテレビを接続するだけで、撮影した画像や撮影中の表示をご家庭のテレビで見ることができます(110ページ)。**
- **ワールドタイム機能を搭載(125ページ)**
  簡単に現地の時間にセットできます。世界162都市(32タイムゾーン)に対応しています。
- **拡張用メモリーカードとしてSDメモリーカードとMMC(マルチメディアカード)に対応(131ページ)**
- **DPOF(Digital Print Order Format)に対応(137ページ)**
  同規格に準じたデジタルDPEサービスを簡単に利用することが可能です。
- **PictBridge、USB DIRECT - PRINTに対応(139ページ)**
  この規格に対応したプリンタに直接接続して、画像を印刷することができます。
- **PRINT Image MatchingⅢに対応(143ページ)**
  PRINT Image MatchingⅢ対応プリンタでの出力および対応ソフトウエアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。
- **カメラとパソコンを接続するだけで、簡単にパソコンへ画像データを転送することができます(145、151ページ)。**
- **DCF(Design rule for Camera File system)に対応(154ページ)**
  同規格に準じた他の機器との互換性があります。
- **Photo Loader、Photohandsを付属(160、162、166ページ)**
  好評な自動取り込み機能を備えたPhoto Loaderを付属。レタッチ機能を備えたPhotohandsも付属。更に多彩に画像を活用できます。

使用上のご注意

■ 撮影前のご注意(ためし撮りをしてください)

必ず事前にためし撮りをして、カメラに画像が正常に記録されていることを確認してください。

■ データエラーのご注意

- 本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると内部のデータが破壊される恐れがあります。

  – カメラの動作中に電池やメモリーカードを抜いた
  – 電源を切ったときに【動作確認用ランプ】が緑色に点滅している状態で電池やメモリーカードを抜いた
  – 通信中にUSBケーブルがはずれた
  – 消耗した電池を使用し続けた
  – その他の異常操作

このような場合、画面にメッセージが表示される場合があります(180ページ)。画面に対応した処置をお願いいたします。

■ 使用環境について

- 使用できる温度の範囲は、0℃〜40℃です。
- 次のような場所には置かないでください。

  – 直射日光のあたる場所、湿気やホコリの多い場所
  – 冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
  – 日中の車内、振動の多い場所

■ 結露について

- 真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付く(結露)ことがあります。結露は故障の原因になりますので、ご注意ください。結露を防ぐには、温度差の大きな場所の間を移動する前に、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に充分慣らしてから取り出して、電池カバーを開けたまま数時間放置してください。

■ 電源について

- 電池は、必ず専用リチウムイオン充電池NP-20をお使いください。他の電池は使用できません。
- 本機には時計専用の電池は入っておりません。電池で電源が供給されていないと、約30時間で日時がリセットされますので、その場合は再度設定してください(124ページ)。
- カメラの動作中に電池を絶対に抜かないでください。カメラが壊れる恐れがあります。もしも誤って電池を抜いた場合は、電池を正しく入れ直した後、【電源ボタン】を押して電源を入れてください。

■ レンズについて

- レンズ面は強くこすったりしないでください。レンズ面に傷が付いたり、故障の原因となります。
- レンズの特性(歪曲収差)により、撮影した画像の直線が歪む(曲がる)場合がありますが、故障ではありません。

■ カメラのお手入れについて

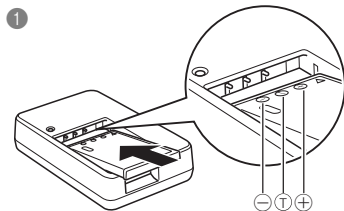
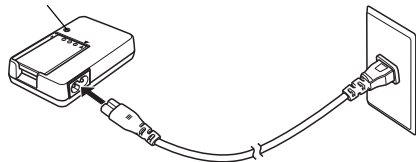
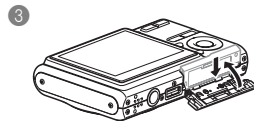
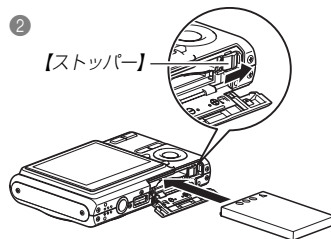
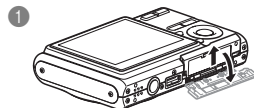
- レンズ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、レンズ面には触れないでください。レンズ面の汚れは、ブロアー等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- フラッシュ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、フラッシュ面には触れないでください。フラッシュ面の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- 本機が汚れた場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。

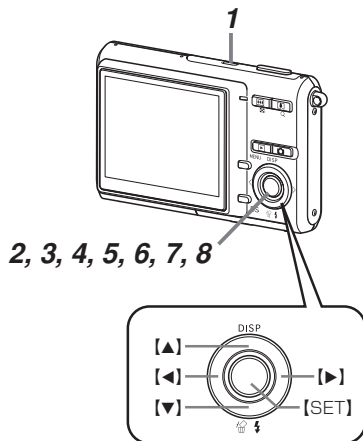
■ その他の注意

- 使用中、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。

はじめに電池を充電する

1. 付属のリチウムイオン充電池(NP-20)を充電します(28ページ)。

- 約1時間30分でフル充電されます。

2. 電池を入れます(29ページ)。

画面メッセージの言語／日時を設定する

重要!
- お買い上げ後、初めて撮影する前に設定してください(詳しくは37ページ参照)。
- 誤って設定してしまった場合は、表示言語／日時を設定し直すことができます(124、128ページ)。

1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

2. 【▲】を押して、言語(日本語)を選び、【SET】を押します。

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で自宅都市のエリアを選び、【SET】を押します。

4. 【▲】【▼】で自宅都市を選び、【SET】を押します。
- 日本で使う場合は"Tokyo"を選んでください。

5. 【▲】【▼】でサマータイムの設定を選び、【SET】を押します。
- 日本で使う場合は"切"を選んでください。

6. 【▲】【▼】で日時の表示スタイルの設定を選び、【SET】を押します。

7. 日付と時刻を合わせます。

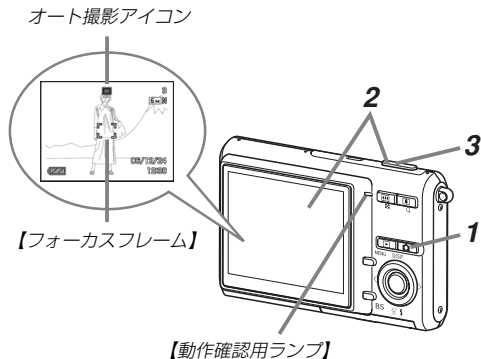
8. 【SET】を押します。
- 設定を終了します。

撮影する

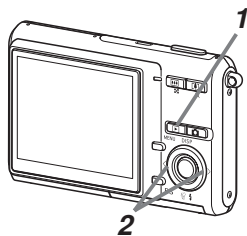
（詳しくは39ページ参照）

1. **【📷】（REC）を押します。**
- RECモードになり、撮影できる状態になります。
- 【液晶モニター】に“▭”（オート撮影アイコン）が表示されます。

2. **撮影する被写体にカメラを向け、【液晶モニター】で確認しながら【シャッター】を半押ししてピントを合わせます。**
- ピントが合うと【フォーカスフレーム】が緑色になり、【動作確認用ランプ】が緑色に点灯します。

3. **カメラを固定し、静かに【シャッター】を押します。**

市販のメモリーカードを使用する場合は、カメラでフォーマットしたメモリーカードをご使用ください。メモリーカードのフォーマットは133ページを参照してください。

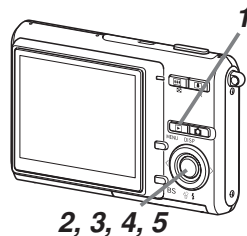
撮影したファイルを見る（再生する）

（詳しくは93ページ参照）

1. **【▶】（PLAY）を押します。**

- PLAYモードになり、再生できる状態になります。

2. **【◀】【▶】を押すと、記録したファイルの戻し／送りができます。**

撮影したファイルを消去する

（詳しくは113ページ参照）

1. **【▶】（PLAY）を押します。**

2. **【▼】（🗑 ⚡）を押します。**

3. **【◀】【▶】を押して、消去したいファイルを選びます。**

4. **【▲】【▼】を押して、“消去”を選びます。**

- 消去を中止したいときは、“キャンセル”を選んでください。

5. **【SET】を押します。**

- ファイルが消去されます。

準備する

初めてご使用になる方は、撮影前の準備を行ってください。

本書の表記について

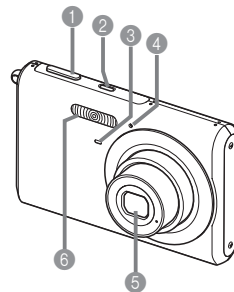
- 【　】に囲まれた単語は、本機のボタンや各部の名称です。
- “　”に囲まれた単語は、本機の液晶画面に表示されるアイコンやメッセージです。

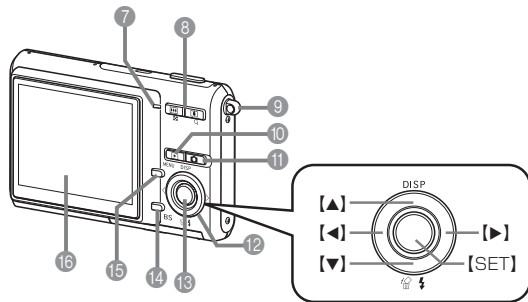
- **重要!** に記載された情報は、使用上、注意していただきたい重要な情報です。
- **参考** に記載された情報は、便利な使いかたや、参考になる情報です。

各部の名称

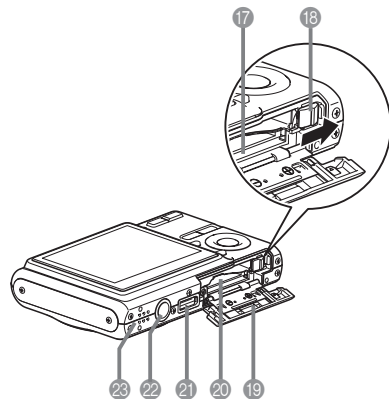
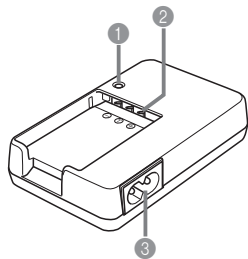
この取扱説明書では、本機の各部の名称を次のように【　】を使って表記します。

カメラ本体

■ 前面部

1【シャッター】
2【電源ボタン】
3【セルフタイマーランプ】
4【マイク】
5【レンズ】
6【フラッシュ】

■ 後面部

⑦【動作確認用ランプ】
⑧【ズームボタン】
⑨【ストラップリング】
⑩【▶】(PLAYモード)
⑪【📷】(RECモード)
⑫【コントロールボタン】
※ 本書では、このボタンを【▲】【▼】【◀】【▶】と表記します。
⑬【SET】
⑭【BS】(BEST SHOT)
⑮【MENU】
⑯【液晶モニター】

■ 底面部

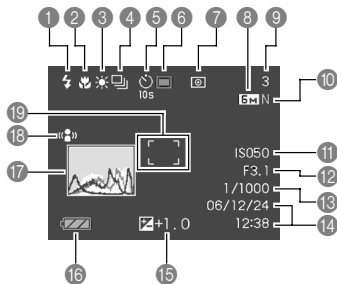
⑰【メモリーカード挿入口】
⑱【ストッパー】
⑲【電池カバー】
⑳【電池室】
㉑【USB／AV接続端子】
㉒【三脚穴】
※ 三脚に取り付けるときに使用します。
㉓【スピーカー】

リチウムイオン充電器

❶【CHARGEランプ】
❷ ⊕、⊖接点
❸【ACジャック】

液晶モニターの表示内容

【液晶モニター】には、さまざまな情報が表示されます。

- この章の画面は、説明に必要な内容を表示させたものですので、実際の画面とは一致しません。あらかじめご了承ください。

RECモード時

■情報表示

❶ フラッシュモード表示(48ページ)

（フラッシュオート）
（発光禁止）
（強制発光）
（ソフト発光）
（赤目軽減）

- は、フラッシュオートに切り替えたとき、一時的に表示され、すぐに消えます。
- フラッシュオート時にフラッシュ発光する場合は、【シャッター】を半押ししたときにが表示されます。

❷ フォーカスモード(56ページ)

AF（オートフォーカス）
（マクロ）
PF（パンフォーカス）
∞（無限遠）
MF（マニュアルフォーカス）

- AFは、キーカスタマイズ機能(83ページ)によりオートフォーカスに切り替えたとき、一時的に表示され、すぐに消えます。

❸ ホワイトバランス表示(64ページ)

AWB（オート）
（太陽光）
（曇天）
（日陰）
N（昼白色）
D（昼光色）
（電球）
MWB（マニュアル）

- AWBは、キーカスタマイズ機能(83ページ)によりオートに切り替えたとき、一時的に表示され、すぐに消えます。

❹ 連写モード(66ページ)

表示なし（1枚撮影）
（通常連写）
（高速連写）
（フラッシュ連写）

❺ セルフタイマー(52ページ)

表示なし（1枚撮影）
10s（セルフタイマー10秒）
2s（セルフタイマー2秒）
x3（トリプルセルフタイマー）

❻ 撮影の種類

（オート撮影）
BS（ベストショット）
（easy(簡単撮影)）
（ムービー）
（ボイスレコード）

⑦ 測光方式表示（88ページ）
表示なし（マルチ測光）
（中央重点測光）
（スポット測光）

⑧ • 静止画：画像サイズ（54ページ）

⑨ • 静止画：撮影可能枚数（42、182ページ）
• 動画：残り撮影時間（77ページ）

⑩ • 静止画：画質（55ページ）
F：Fine（高精細 - F）
N：Normal（標準 - N）
E：Economy（エコノミー - E）
• 動画：画質（76ページ）
HQ（高品位 - HQ）
Normal（標準 - Normal）
LP（長時間 - LP）

⑪ ISO感度（87ページ）

⑫ 絞り値（42ページ）

⑬ シャッター速度（42ページ）

⑭ 日付／時刻（124ページ）

⑮ 露出補正表示（62ページ）

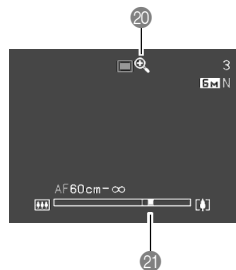
⑯ バッテリー残量表示（31ページ）

⑰ ヒストグラム（81ページ）

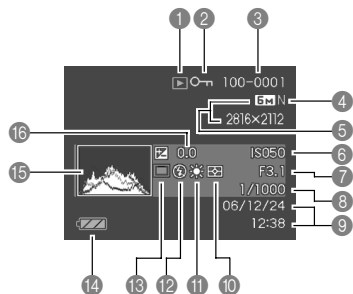
⑱ ブレ軽減表示（70ページ）

⑲ フォーカスフレーム（41ページ）
• ピント合わせ完了時：緑色に点灯
• ピント合わせ不可時：赤色に点灯

参考

• 絞り値、シャッター速度、ISO感度はAE（自動露出）が適正範囲でない場合、【シャッター】を半押ししたときにオレンジ色で表示されます。
• 下記の機能を切り替えたとき、アイコンの意味（アイコンガイド）が表示されます。このガイドは表示させないこともできます（85ページ）。
フラッシュモード、フォーカスモード、ホワイトバランス、セルフタイマー、撮影の種類、露出補正

⑳ デジタルズーム表示（47ページ）

㉑ ズームバー（47ページ）
左部分が光学ズーム域
右部分がデジタルズーム域

PLAYモード時

❶ ファイル形態
- (静止画)
- (ムービー)
- (音声付静止画)
- (ボイスレコード)

❷ プロテクト表示(116ページ)

❸ フォルダ名／ファイル名(115ページ)
例： メモリー内のフォルダ名が100CASIO、ファイル名がCIMG0023.JPGの場合
100-0023
フォルダ名 ファイル名

❹
- 静止画：画質(55ページ)
  F：Fine (高精細 - F)
  N：Normal (標準 - N)
  E：Economy (エコノミー - E)
- 動画：撮影時間(77ページ)

❺
- 静止画：画像サイズ(54ページ)
- 動画：画質(76ページ)
  HQ (高品位 - HQ)
  Normal (標準 - Normal)
  LP (長時間 - LP)

❻ ISO感度(87ページ)

❼ 絞り値(42ページ)

❽ シャッター速度(42ページ)

❾ 日付／時刻(124ページ)

❿ 測光方式表示(88ページ)
- (マルチ測光)
- (中央重点測光)
- (スポット測光)

⓫ ホワイトバランス表示(64ページ)
- AWB (オート)
- (太陽光)
- (曇天)
- (日陰)
- (昼白色)
- (昼光色)
- (電球)
- MWB (マニュアル)

⓬ フラッシュモード表示(48ページ)
- (発光)
- (発光禁止)
- (ソフト発光)
- (赤目軽減)

⓭ 撮影の種類
- (オート撮影、easy(簡単撮影))
- BS (ベストショット)

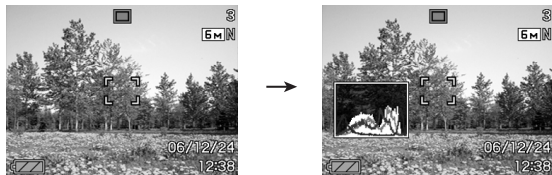
⓮ バッテリー残量表示(31ページ)

⓯ ヒストグラム(81ページ)

⓰ 露出補正表示(62ページ)

液晶モニターの表示内容を切り替える

【▲】(DISP)を使って、【液晶モニター】に表示される内容を切り替えることができます。

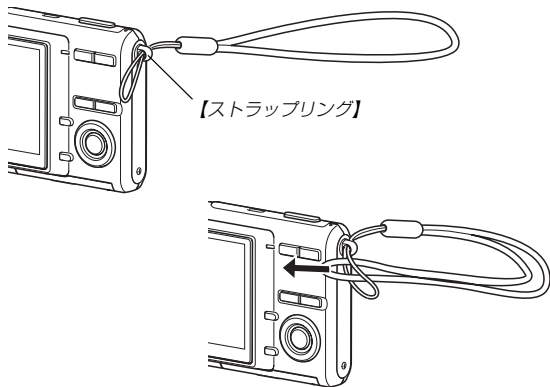
■ RECモード時

情報表示オン → ヒストグラム表示オン ↙ 情報表示オフ ↖

■ PLAYモード時

情報表示オン → ヒストグラム／詳細情報表示オン ↙ 情報表示オフ ↖

重要!
- 音声付き静止画の音声待機中／記録中は、【▲】(DISP)を使って【液晶モニター】の表示内容を切り替えることはできません。
- RECモード時のボイスレコードでのみ、【▲】(DISP)を使って「液晶モニターオフ」ができます。他の撮影機能では、「液晶モニターオフ」はできません。
- RECモード時のボイスレコードでは、「情報表示オン」と「液晶モニターオフ」の切り替えのみ、PLAYモード時のボイスレコードファイルの表示では「情報表示オン」と「情報表示オフ」の切り替えのみとなります。
- 「情報表示オフ」でボイスレコードファイルを再生すると、2秒後に自動的に【液晶モニター】が非表示になります。再生が終了すると自動的に「情報表示オフ」の表示に戻ります。

ストラップを取り付ける

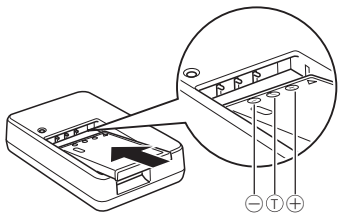
ストラップは、【ストラップリング】に取り付けます。

重要!
- 本機操作時は落下を防止するため、必ずストラップに指を通した状態で使用してください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途に使用しないでください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。

電源について

本機は専用リチウムイオン充電池（NP-20）を電源として利用します。

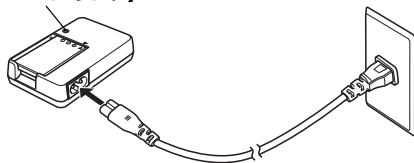
> 最初、電池はフル充電されていません。「充電式電池を充電する」に従って充電してください。

充電式電池を充電する

1. **電池と充電器の極性を合わせ、電池をリチウムイオン充電器にセットします。**

- 電池と充電器の極性を合わせて入れてください。向きが違っていると充電できません。

2. **電源コードを充電器と接続し、電源コードのプラグを家庭用コンセントに接続します。**

- 充電器の【CHARGEランプ】が赤色に点灯し、充電を開始します。
- 約1時間30分※でフル充電されます。

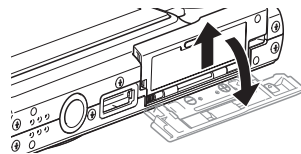
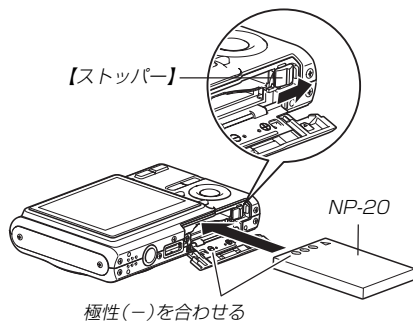
  ※ 充電時間は、電池の容量や残量、使用環境によって若干変化します。

3. **充電が完了すると【CHARGEランプ】が消灯しますので、電源コードをコンセントから取りはずし、その後充電器から電池を取りはずします。**

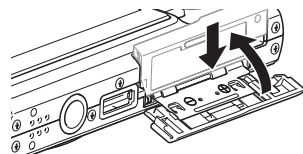
重要!
- 充電開始時に電池温度または充電器の温度が高温状態または低温状態のときは、【CHARGEランプ】が消灯し、充電待ちの状態になります。充電可能な温度になると、【CHARGEランプ】が赤点灯に変わり、自動的に充電を開始します。充電中においても、一時的に【CHARGEランプ】が消灯し、充電待ち状態になる場合があります。
- 使用した直後の熱くなった電池をすぐに充電すると、充分に充電されない場合があります。いったん電池が冷えるのを待ってから充電してください。
- 電池は使用せずに放置していた場合でも、自己放電します。必ず充電してからご使用ください。
- 充電中、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。そのような場合は、テレビやラジオからできるだけ離れたコンセントをご使用ください。
- 充電器の接点や、電池の端子が汚れていると正常に充電できないことがあります。時々乾いた布で拭いてください。

■ 海外でのご使用について

- リチウムイオン充電器はAC100V～240V・50/60Hzの電源に対応していますので、海外への旅行の際にもご利用できます。
  ただし、使用する国によっては電源コードのプラグ形状が合わないなどの問題があるため 、旅行代理店などで、現地で使用可能かどうかを事前にご確認ください。

充電式電池を入れる

1. 本体底面の【電池カバー】を押しながら、矢印の方向にスライドさせて開きます。

2. **電池のEXILIMのロゴのある面を上(【液晶モニター】側)にして、電池側面で【ストッパー】を矢印の方向にずらしたまま電池をセットします。**

- 電池の底の部分を押して【ストッパー】が電池にしっかりかかるのを確認してください。

3. **【電池カバー】を矢印の方向に押しつけながら、スライドして閉めます。**

重要! • 電池は、必ず専用リチウムイオン充電池(NP-20)をお使いください。他の電池は使用できません。

バッテリー残量表示について

電池が消耗すると【液晶モニター】に表示されているバッテリー残量表示が下記表のように変化します。［電池アイコン］の状態は電池残量が少ないことを表しています。［電池アイコン］の状態では撮影できません。速やかに電池を充電し直してください。

電池残量	多 ←――――――――――→ 少
画面情報表示	［アイコン］ → ［アイコン］ → ［アイコン］ → ［アイコン］
残量表示の色	みず色 → オレンジ色 → 赤色 → 赤色

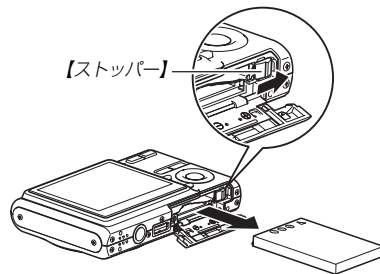
重要!
- RECモードとPLAYモードの切り替えをした場合、バッテリー残量表示の状態が変わることがあります。
- 電池の使用時間と撮影可能枚数については、185ページをご覧ください。

■ 電池を長持ちさせるために

- フラッシュを使用しないで撮影するときは、フラッシュの発光方法を［発光禁止アイコン］（発光禁止）に設定してご使用いただくと、電池寿命が長くなります（48ページ）。
- オートパワーオフ機能やスリープ機能（34ページ）を使用することにより、電源の切り忘れなどのむだな消費電力をおさえることができます。

充電式電池を交換する

1. 【電池カバー】を開きます。

2. 【ストッパー】を矢印の方向にずらすと、電池が少し出てきます。

3. 出てきた電池を引き抜きます。

- 電池を落とさないようにご注意ください。

4. 新しい電池を入れます（29ページ）。

電源に関する使用上のご注意

■ 電池使用時のご注意

使用上のご注意

- この電池は、カシオデジタルカメラ専用のリチウムイオン充電池です。適応機種については、お使いのカメラの取扱説明書でご確認ください。
- 専用リチウムイオン充電池（NP-20）の充電は、専用充電器（BC-11L）をお使いください。他の充電器では使用できません。
- 寒い場所では、電池の特性上、充分に充電された電池を使用しても、使用時間が短くなります。
- 充電は10℃～35℃の温度範囲で行ってください。範囲外の温度で充電すると、充電時間が長くなったり、充分な充電ができないことがあります。
- 本電池の寿命は使用状況によって異なりますが、約500回の充放電ができます。
- 充電直後でも電池の使用時間が大幅に短くなった場合は、電池の寿命と思われますので、新しいものをお買い求めください。

保存上のご注意

- リチウムイオン充電池は小型で高容量の電池ですが、充電された状態で長期間保存すると特性が劣化することがあります。
  - しばらく使わない場合は、使い切った状態で保存してください。
  - 使用しないときは必ず充電池をデジタルカメラから取りはずしてください。取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、電池が消耗し、充電に時間がかかったり、こわれたりします。
  - 乾燥した涼しい場所（20℃以下）で保存してください。

充電式電池の取扱いについて

- リサイクルのお願い

Li-ion

不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

> <最寄りのリサイクル協力店へ>
>
> 詳細は、有限責任中間法人JBRCのホームページをご参照ください。
>
> - ホームページ　http://www.jbrc.com/

- 使用済み充電式電池の取扱い注意事項
  - プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
  - 被覆をはがさないでください。
  - 分解しないでください。

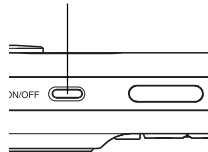
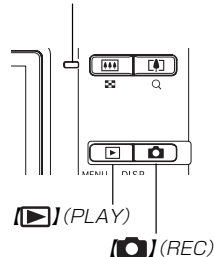
■ リチウムイオン充電器ご使用時のご注意

- 充電中、充電器は若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- ご使用にならないときは、電源コードをコンセントから必ずはずしてください。
- この充電器は、垂直または床面（水平）状態で使用してください。

電源を入れる／切る

■ 電源を入れる

【電源ボタン】、【◉】（REC）または【▶】（PLAY）を押すと、【動作確認用ランプ】が緑色に一時点灯し、電源が入ります。押すボタンによって電源が入った後の状態が異なります。

REC（撮影）モードで電源を入れたいとき
　：【電源ボタン】または【◉】（REC）を押す。
PLAY（再生）モードで電源を入れたいとき
　：【▶】（PLAY）を押す。

参考

- 電源が入っているときに【 】(REC)を押すとRECモードに、【▶】(PLAY)を押すとPLAYモードに切り替わります。
- RECモードから【▶】(PLAY)を押してPLAYモードに切り替えると、約10秒後にレンズが収納されます。

重要!

- オートパワーオフ機能により電源が切れた場合は、再度【電源ボタン】、【 】(REC)または【▶】(PLAY)を押して電源を入れてください。
- 【電源ボタン】または【 】(REC)を押して電源を入れると、レンズが出てきます。その際にレンズを押さえたり、ぶつけたりしないようご注意ください。

■ 電源を切る

【電源ボタン】を押すと、電源が切れます。

参考

- 【 】(REC)や【▶】(PLAY)を押しても電源が入らないようにしたり、【 】(REC)や【▶】(PLAY)を押して電源を切ることができるように設定することができます。詳しくは「【 】(REC)/【▶】(PLAY)の動作を設定する」(129ページ)をご覧ください。

電池の消耗を抑えるための機能

電池の消耗を抑えるために、以下の2通りの設定ができます。

スリープ	:	RECモード時に一定時間操作をしないと、【液晶モニター】のみ消灯します。ボタン操作をすると【液晶モニター】が再度点灯します。
オートパワーオフ	:	一定時間操作しないと電源が切れます。

1. **電源を入れます。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **【◀】【▶】で"設定"タブを選びます。**

4. **【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】を押します。**

スリープの設定:"スリープ"

オートパワーオフの設定:"オートパワーオフ"

- メニューのたどりかたについては35ページを参照してください。

5.【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

スリープの設定内容：“30秒”“1分”“2分”“切”

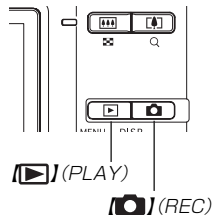
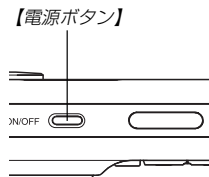
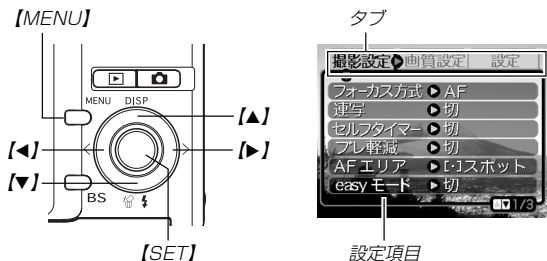
オートパワーオフの設定内容：“2分”“5分”

- PLAYモードではスリープは働きません。
- スリープ中にいずれかのボタンを押すと、スリープを解除してすぐに撮影できる状態になります。
- 以下の状態では、オートパワーオフ、スリープは働きません。
  - 本機をパソコンなどと接続しているとき
  - ボイスレコードファイル再生中
  - 動画撮影中
  - 動画再生中

メニュー画面の操作について

本機ではメニュー画面を使用してさまざまな操作を行います。この操作をまず覚えてください。【MENU】を押すと、メニュー画面が表示されます。メニューの内容はREC(撮影)モードとPLAY(再生)モードでは異なります。ここでは例としてRECモードでの代表的な操作を説明します。

1.【電源ボタン】または【📷】(REC)を押します。

- PLAYモードにして操作を行うときは【▶】(PLAY)を押します。

2. 【MENU】を押します。

●メニュー画面で使うキーについて

【◀】【▶】	タブを選びます。【▶】は項目の決定にも使います。
【▲】【▼】	設定項目を選びます。
【SET】	選択した項目に決定します。
【MENU】	メニュー画面の操作を中断します。

3. 【◀】【▶】で設定したい項目のあるタブを選びます。

4. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】を押します。

- 【▶】を押す代わりに【SET】を押しても、次の画面に移ります。

例）設定項目“フォーカス方式”を選んだ場合

5. 【▲】【▼】で設定内容を選びます。

6. 選択した内容を決定します。

- 【SET】を押すと内容が決定され、メニュー画面から抜けます。
- 【◀】を押すと内容が決定され、メニュー画面に戻ります。続けて他の項目を設定することができます。ただし、easyメニュー画面のメニュー項目「easyモード」の設定では内容が決定され、メニュー画面から抜けます(43ページ)。
- 他のタブに移りたいときは、【◀】を押して、【▲】でタブに戻り、【◀】【▶】で他のタブに移ってください。

重要!
- メニューの内容については「メニュー一覧表」(169ページ)を参照してください。
- easy(簡単撮影)モード(43ページ)に設定すると、通常のメニュー画面よりも大きな文字で、4つのメニュー項目のみが表示されます。また、吹き出しで簡単な説明も表示されます。

表示言語／日時を設定する

お買い上げ後初めて撮影をする前に、下記の設定を行ってください。

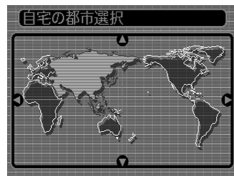
- 画面のメッセージの言語設定
- 自宅の都市の設定
- 表示スタイルの設定
- 日時設定（この日時は、印刷情報などに利用されます）

重要!
- 日時を設定しないと、間違った時間で記録されてしまいますので、必ず設定してください。
- 下記のような電源が供給されない状態で約30時間放置した場合は、日時がリセットされてしまいます。
  – 充電式電池が消耗している／充電式電池を取り外している
- 日時がリセットされているときに電源を入れると、日時設定画面が表示されます。その場合は、再度日時を設定してください。
- 誤って設定してしまった場合は、表示言語／日時を設定し直すことができます。（124、128ページ）
- 設定した日時が、タイムスタンプ機能とDPOF機能の日付に反映されます（91、137ページ）。

1. **【電源ボタン】、【】（REC）または【】（PLAY）を押して、電源を入れます。**

2. **【▲】【▼】【◀】【▶】で言語を選び、【SET】を押します。**

日本語　：日本語
English　：英語
Français　：フランス語
Deutsch　：ドイツ語
Español　：スペイン語
Italiano　：イタリア語
Português：ポルトガル語

3. **【▲】【▼】【◀】【▶】で自分の住んでいる地域を選び、【SET】を押します。**

4. **【▲】【▼】で自分の住んでいる都市を選び、【SET】を押します。**

- 日本で使う場合は“Tokyo”を選んでください。

5. **【▲】【▼】でサマータイムの設定を選び、【SET】を押します。**

入：サマータイムになります。

切：通常の時刻になります。

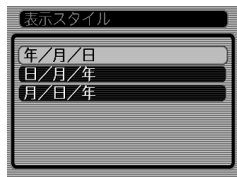
- 日本で使う場合は“切”を選んでください。

6. **【▲】【▼】で日付のスタイルを選び、【SET】を押します。**

例）2006年12月24日

年／月／日：06/12/24

日／月／年：24/12/06

月／日／年：12/24/06

7. **日付と時刻を合わせます。**

【▲】【▼】を押す：

カーソル（選択枠）の部分の数字を変えます。

【◀】【▶】を押す：

カーソル（選択枠）を移動します。

【BS】：

12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

8. **【SET】を押して、設定を終了します。**

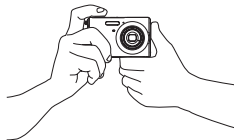
撮影する（基本編）

ここでは最も基本的な撮影方法について説明します。

基本的な撮影のしかた

カメラの正しい構えかた

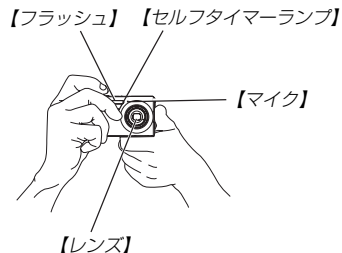
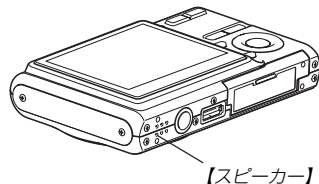
カメラは両手でしっかりと持って、撮影してください。片手で持つと、手ブレを起こす恐れがあります。

- 横に持つ場合

両手でカメラをしっかり持ち、脇をしっかり締めてください。

- 縦に持つ場合

縦に持つ場合は、【レンズ】より【フラッシュ】が上にくるようにして、カメラをしっかり持ってください。

重要!

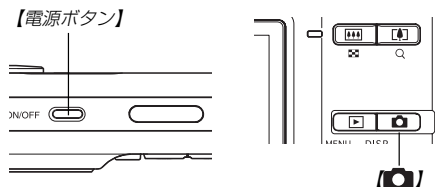
- 指やストラップが、下記の部分にかからないように注意してください。

- カメラの底面部には【スピーカー】があります。カメラの持ちかたによっては【スピーカー】がふさがり、操作音などが聞き取りづらくなることがあります。

参考 • 【シャッター】を押し切った瞬間にカメラがぶれたり、オートフォーカス動作中(シャッター半押し時)にカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、【シャッター】を静かに押し、【シャッター】を押し切った瞬間にカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときは、シャッター速度が遅くなるので、注意してください。

撮影する

本機では被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度を自動的に調整します。撮影された画像は、順次内蔵メモリーに保存されます。

• 市販のメモリーカード(SDメモリーカードまたはMMC〈マルチメディアカード〉)に保存することもできます(131ページ)。

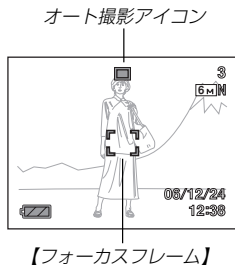
市販のメモリーカードを使用する場合は、あらかじめメモリーカードを入れて、メモリーカードのフォーマットを行ってください(133ページ)。

1. 【電源ボタン】または【📷】(REC)を押して、電源を入れます。

• 【液晶モニター】に画像とオート撮影アイコン“▣”が表示されます。オート撮影アイコン“▣”が表示されない場合は、67ページの操作で“オート”のシーンを選び、“▣”を表示させてください。

- RECモードになり、撮影できる状態になります。
- すでに電源が入っている状態で下記のようにPLAY(再生)モードになっている場合は、【📷】を押してREC(撮影)モードに切り替えてください。
  –「ファイルがありません」と表示されている。
  –“▶”が【液晶モニター】の上部に表示されている。

2.【液晶モニター】に表示されている【フォーカスフレーム】を被写体に合わせます。

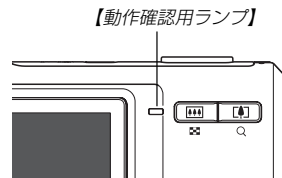
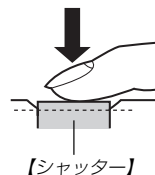
- 撮影できる距離は、フォーカスモードによって異なります(56ページ)。

オート撮影アイコン

【フォーカスフレーム】

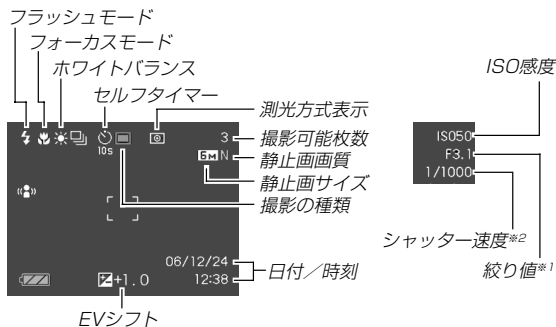
3.【シャッター】を半押しし、ピントを合わせます。

- 【シャッター】を半押しすると、オートフォーカス機能により自動的にピントが合い、シャッター速度、絞り値、およびISO感度が表示されます。

【シャッター】

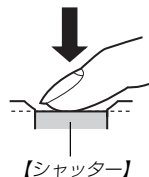
- ピントは【フォーカスフレーム】や【動作確認用ランプ】の点灯のしかたで知ることができます。

【動作確認用ランプ】

状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯

- 【液晶モニター】にはさまざまな情報が表示されます。

※1 レンズを通してCCDに当たる光の量を制限する機構（絞り）の開口部の大きさの値です。数値が大きくなるほど、光が通る開口部の大きさが狭くなります。本機では自動的に調整されます。

※2 レンズを通してCCDに当たる光の量を制限する機構（シャッター）の動作速度のことです。時間が長くなるほど光の量は増えます。本機では自動的に調整されます。

4. ピントが合っていることを確認して【シャッター】を全押しします。

- サイズ、画質によって撮影できる枚数が異なります（54、55、182ページ）。

重要!
- クイックシャッター（58ページ）を使用すると、【シャッター】半押しによるオートフォーカスが完了する前に、【シャッター】を全押しすると、オートフォーカスが作動せずに撮影されます。シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。

手軽に撮影する（easy（簡単撮影）モード）

easy（簡単撮影）モードに設定すると、難しい設定を心配せず、手軽に撮影することができます。初心者の方におすすめのモードです。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。

3. 【▲】【▼】で“easyモード”を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押します。

- easy（簡単撮影）モードに設定すると、【液晶モニター】に“ ”が表示されます。

5. 【液晶モニター】に表示されている【フォーカスフレーム】を被写体に合わせます。

6. 【シャッター】を半押しし、ピントを合わせます。

- ピントが合うと【フォーカスフレーム】が緑色になり、【動作確認用ランプ】が緑色に点灯します。

7. ピントが合っていることを確認して【シャッター】を全押しします。

- 画像が撮影されます。

■ easy（簡単撮影）モードのメニュー設定について

easy（簡単撮影）モードでは「フラッシュ」、「セルフタイマー」、「画像サイズ」、「easyモード」の4つのメニュー項目のみが設定できます。

- 上記以外の撮影設定タブ（169ページ）／画質設定タブ（170ページ）のメニュー項目は撮影に最適な状態に固定され、通常の撮影モードで設定した状態は反映されません。
- 設定タブ（170ページ）のメニュー項目を設定したい場合は、以下の操作3で「easyモード」をOFFに設定して、通常の撮影モードに切り替えてから行ってください。

1. 【MENU】を押します。

- easyメニュー画面は、通常のメニュー画面よりも大きな文字で表示されます。

2. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【SET】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

メニュー項目	設定内容
フラッシュ	⚡A（フラッシュオート）／⚡（強制発光）／（発光禁止）
セルフタイマー	（10秒セルフタイマー）／OFF
画像サイズ	6M／3M／VGA
easyモード	ON／OFF
メニュー終了	easyメニュー画面から抜けます。

※下線の引いてある項目は初期設定値です。

- メニュー項目「フラッシュ」、「セルフタイマー」、「画像サイズ」の設定内容は、次のページを参照してください。
  「フラッシュを使って撮影する」（48ページ）
  「セルフタイマーを使って撮影する」（52ページ）
  「画像サイズを変更する」（54ページ）
- メニュー項目「easyモード」の設定内容は、下記の通りです。
  ON ：easyモードのまま、他のモードに切り替えません。
  OFF ：easyモードから通常の撮影モードに切り替えます。
- 吹き出しで簡単な設定内容の説明が表示されます。

撮影に関するご注意

■ 撮影時のご注意

- 【動作確認用ランプ】が緑色に点滅している間に【電池カバー】を開けることは、絶対におやめください。今撮影した内容が記録されないばかりでなく、撮影済みの内容が破壊されたり、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- メモリーカードに記録中は、メモリーカードを抜かないでください。
- 蛍光灯照明の室内で撮影する場合、本機は蛍光灯のフリッカー（人の目では感じられない、ごく微妙なちらつき）を感知してしまい、撮影するタイミングによって、微妙に撮影画像の明るさや色合いが変わる場合があります。
- ISO感度が“オート”の場合（87ページ）は、被写体の明るさに応じて感度が自動的に変化します。被写体が暗いと画像にノイズがのる場合があります。
- ISO感度が“オート”の場合（87ページ）は、被写体が暗いときに感度を上げてシャッタースピードを速くするようにしていますが、フラッシュの発光方法（48ページ）が（発光禁止）のときには手ブレに注意してください。
- 不要な光がレンズに当たる場合は、手で遮光してから撮影してください。

■ オートフォーカスのご注意

- 次のような被写体に対しては、ピントが合わないことや正確でないことがあります。
  - 階調のない壁などコントラストが少ない被写体
  - 強い逆光のもとにある被写体
  - 明るく光っている被写体
  - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
  - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
  - 暗い場所にある被写体
  - 動きの速い被写体
  - 撮影範囲外の被写体
- 手ブレをしているとき、ピントが合わないことや正確でない場合があります。
- 【動作確認用ランプ】が緑色に点灯していたり、【フォーカスフレーム】が緑で表示されていてもピントが正しく合わない場合があります。
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック(62ページ)やマニュアルフォーカス(61ページ)をご利用ください。

■ 撮影時の画面のご注意

- 撮影時、【液晶モニター】に表示される被写体の画像は、フレーム確認のための簡易画像です。撮影した内容は、選択した画質で記録されており、出力画素数は確保されています。メモリーには精細な画像で記録されています。
- 被写体の明るさにより、撮影時の【液晶モニター】の表示速度が遅くなったり、ノイズが出る場合があります。
- 極端に明るい被写体を撮影すると、【液晶モニター】上の画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります(スミア現象といいます)。これはCCD特有の現象で、故障ではありません。なお、この帯は静止画には記録されませんが、動画(76ページ)にはそのまま記録されますので、ご注意ください。

ズームを使って撮影する

本機のズームには、光学ズームとデジタルズームの2種類があります。

光学ズーム

レンズの焦点距離を変えて撮影することができます。ズームの倍率は次の通りです。

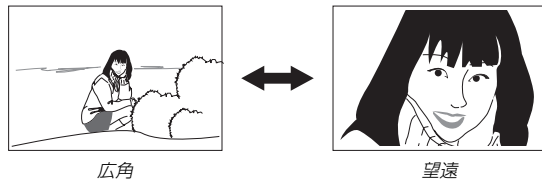
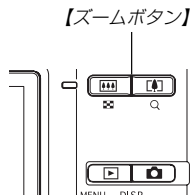
倍率：1～3倍

1. RECモードにします。

2.【ズームボタン】を押して、ズームの倍率を変えます。

（広角）：被写体を小さく写したり、広い範囲を写したりします。

（望遠）：被写体を大きく写したり、狭い範囲を写したりします。

広角　　望遠

3.【シャッター】を押して撮影します。

参考

- 光学ズームの倍率により、レンズの絞りの値も変わります。
- 望遠で撮影するときは、手ブレ防止のため、三脚の使用をおすすめします。
- オートフォーカス／マクロ（接写）／マニュアルフォーカス撮影時に光学ズームを行うと、画面上に撮影可能な距離の範囲が表示されます（57、59、61ページ）。
- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。【シャッター】を押す前であれば、光学ズームは使用できます（76ページ）。

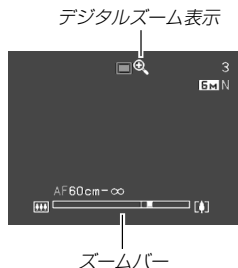
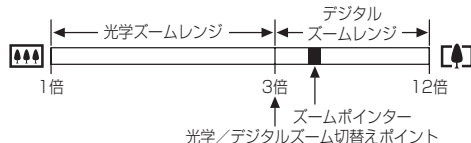
デジタルズーム

光学ズームが最も望遠になった(3倍)状態から、さらに画面の中央を拡大して撮影することができます。デジタルズームを使ったときのズームの倍率は次の通りです。

倍率:3〜12倍(光学ズーム併用)

重要!
- デジタルズームを使ってズーム撮影すると、画面の中央をデジタル処理で拡大するため、光学ズームと異なり画像は粗くなります。
- タイムスタンプを設定して撮影すると、デジタルズームは働きません(91ページ)。

■デジタルズームを使って撮影する

1. **RECモードにし、【ズームボタン】の[♠](望遠)側を押して、ズームの倍率を変えます。**
- 【ズームボタン】を押すと、【液晶モニター】にズームバーが表示されます。この表示で現在のおおよその倍率が分かります。

2. **【ズームボタン】を押して、光学ズームが最も望遠になると(ズームポインターが光学/デジタルズーム切替えポイントにくると)、いったんズーム動作を停止します。**

- ズームバーのデジタルズームレンジは、デジタルズームが"入"に設定されているときにのみ表示されます(48ページ)。

3. **一度【ズームボタン】の[♠](望遠)側から指を離し、再度押し直すと、ズームポインターがデジタルズームレンジに入り、デジタルズームに切り替わります。**
- 【ズームボタン】の[♠♠♠](広角)側を押すと、ズームポインターが光学/デジタルズーム切替えポイントでいったん停止した後、光学ズームレンジに戻り、光学ズームに切り替わります。

4. **【シャッター】を押して撮影します。**

■デジタルズーム機能のオン／オフを切り替える

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. 【◀】【▶】で"撮影設定"タブを選びます。

3. 【▲】【▼】で"デジタルズーム"を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で設定項目を選び、【SET】を押します。

入：デジタルズーム機能が働きます。

切：デジタルズーム機能は働きません。

- "切"を選ぶと、ズームバーには光学ズームレンジのみが表示されます。

フラッシュを使って撮影する

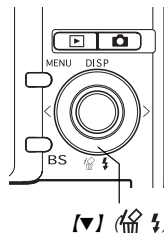
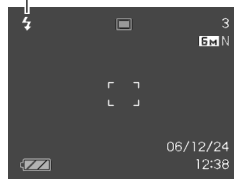
撮影条件に合わせてフラッシュの発光方法を切り替えることができます。

- フラッシュの撮影範囲は下記の通りです。
  広角時：約0.1m〜約3.7m (ISO感度オート時)
  望遠時：約0.6m〜約1.9m (ISO感度オート時)
  ※ 光学ズームにより、撮影範囲は変化します。

1. RECモードにします。

2. 【▼】( )を押して、フラッシュの発光方法を選びます。

- 【▼】を押すたびに【液晶モニター】に次の順でフラッシュの発光方法が表示され、切り替わります。

【▼】( )

フラッシュモード表示

（フラッシュオート）：露出(光の量や明るさ)に合わせて自動的に発光します。

- は、フラッシュオートに切り替えたとき、一時的に表示され、すぐに消えます。

（発光禁止）：露出に関係なく発光しません。

（強制発光）：露出に関係なく強制的に発光します。

（ソフト発光）：露出に関係なく光量を抑えて発光します。

（赤目軽減）：フラッシュ撮影時に人の目が赤く写ることを軽減します。露出に合わせて自動的に発光します。

3.【シャッター】を押して撮影します。

重要!
- フラッシュ撮影時、フラッシュは数回発光します。最初にプリ発光(露出情報を得るための予備発光)し、最後にメイン発光(フラッシュ撮影するための発光)することにより、最適な発光量でフラッシュ撮影が行われます。メイン発光が終わるまで、カメラは動かさないでください。
- ISO感度が"オート"の場合は、感度が高くなるため、フラッシュ使用時にノイズが多くなります。ISO感度を下げると撮影範囲(フラッシュの光が届く範囲)が短くなりますが、ノイズは少なくなります(87ページ)。

■ 強制発光について

日中の撮影で、逆光などで被写体が暗くなるような場合は、フラッシュの発光方法を(強制発光)を選んで、フラッシュを発光させて撮影してください(日中シンクロ撮影)。フラッシュの光により、被写体を明るく撮影することができます。

■ ソフト発光について

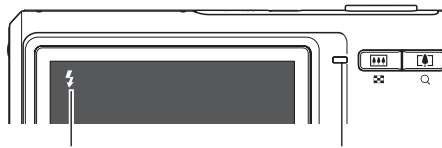
フラッシュの反射など光量を抑えたい場合は、(ソフト発光)を選んで、撮影してください。

■ 赤目軽減機能について

夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するために起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光(写す人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光)することにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

重要!
- 赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。
  - 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。撮影する前にフラッシュを見るように声をかけておいてください。
  - 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

フラッシュの状態について

フラッシュの状態については【シャッター】を半押ししたときに、【液晶モニター】や【動作確認用ランプ】で確認できます。

【液晶モニター】

- フラッシュ発光時は ⚡ が表示されます。

【動作確認用ランプ】

オレンジ点滅:フラッシュ充電中
緑点灯または緑点滅※:
フラッシュ充電完了

※ フォーカスモードがオートフォーカスモード、またはマクロモードで使用している場合、ピントが合っていないときに緑点滅になります。

フラッシュの光量を変える

フラッシュの光量を変えることができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. 【◀】【▶】で"画質設定"タブを選びます。

3. 【▲】【▼】で"フラッシュ光量"を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

+2: 強く光る
+1
0
−1
−2: 弱く光る

重要!
- 被写体が遠かったり、近すぎたりする場合は、光量が変わらない場合があります。

フラッシュ撮影時の光量の不足を補う（フラッシュアシスト機能）

フラッシュの撮影範囲よりも遠い被写体を撮影したとき、撮影に必要なフラッシュ光量が得られずに、被写体が暗く写ってしまう場合があります。そのような場合、この機能を使うと、撮影した被写体の明るさを補正し、フラッシュの光がより遠くへ届いたときと似たような効果を得ることができます。

フラッシュアシスト機能 未使用

フラッシュアシスト機能 使用

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **【◀】【▶】で“画質設定”タブを選びます。**

3. **【▲】【▼】で“フラッシュアシスト”を選び、【▶】を押します。**

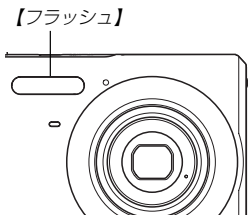
4. **【▲】【▼】で“設定項目”を選び、【SET】を押します。**

オート ： フラッシュアシスト機能が働きます。
切 ： フラッシュアシスト機能は働きません。

重要!

- 被写体によっては、思ったような効果が得られないことがあります。
- 下記のような操作を行ったとき、フラッシュアシスト機能を使用した撮影結果にほとんど変化が表れない場合があります。
  – フラッシュ光量を切り替えたとき（50ページ）
  – 露出補正（EVシフト）を行ったとき（62ページ）
  – ISO感度を切り替えたとき（87ページ）
  – コントラストの設定を切り替えたとき（91ページ）
- フラッシュアシスト機能動作時、ノイズが増える場合があります。

■ フラッシュ使用時のご注意

- 【フラッシュ】が指で隠れないようにしてください。隠れてしまうとフラッシュ本来の効果が得られなくなります。
- 被写体までの距離が遠かったり、近かったりする場合は適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間は、そのときの使用条件(電池の状態や温度等)により異なります。
  数秒〜7秒程度(フル充電の場合)
- 電池が消耗するとフラッシュの充電ができなくなることがあり、フラッシュが正常に発光せずに適正な露出が得られないことがあります。速やかに電池を充電してください。
- 暗い場所で撮影するときにフラッシュを⚡(発光禁止)に設定すると、シャッター速度が遅くなるので、手ブレを防ぐために、カメラを三脚などで固定するようにしてください。なお、このとき撮影した画像は多少ざらついた感じ(ノイズが発生した画像)になる場合があります。
- ◉(赤目軽減)では露出に合わせて自動的に発光するため、明るい場所ではフラッシュは発光しません。
- フラッシュを使用した場合は、外光や蛍光灯など他の光源があると色味が変わることがあります。

セルフタイマーを使って撮影する

【シャッター】を押してから約10秒または約2秒後に撮影することができます。また、3枚連続でセルフタイマー撮影する(トリプルセルフタイマー)こともできます。

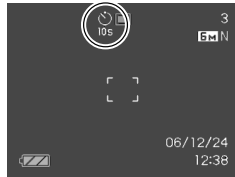
1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

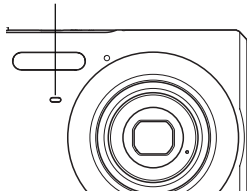
2. **【◀】【▶】で"撮影設定"タブを選びます。**

3. **【▲】【▼】で"セルフタイマー"を選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】でセルフタイマーの種類を選び、【SET】を押します。**

(10s) 10秒 : 10秒後に撮影されます。
(2s) 2秒 : 2秒後に撮影されます。
(x3) ×3 : 10秒後に1枚、その後撮影準備完了の1秒後に1枚、さらに撮影準備完了の1秒後に1枚と、合計3枚撮影されます(トリプルセルフタイマー)。
切 : セルフタイマーは使用できません。

- 【液晶モニター】にセルフタイマーの種類が表示されます。

5. 【シャッター】を押して撮影します。

- 【セルフタイマーランプ】が点滅し、約10秒、または2秒後に撮影されます。
- カウントダウン中に【シャッター】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。

- シャッター速度が遅いときにセルフタイマーの2秒の設定を使用すると手ブレ防止になります。
- トリプルセルフタイマーでは、次の撮影準備が終わると"1sec"と表示され、約1秒後に撮影されます。撮影準備完了までの時間は、画像の"サイズ"や"画質"とメモリーカードの有無またはフラッシュの充電の有無によって異なります。
- 下記の撮影では、トリプルセルフタイマーは使用できません。
  ベストショット撮影の一部("名刺や書類を写します"、"ホワイトボードなどを写します"、"古い写真を写します")、動画撮影

画像サイズを変更する

画像サイズとは、カメラが記録する撮影画像の大きさを画素数(pixels)で表したものです。この画素数は1枚の画像を構成する粒子のきめ細かさを示している数値で、数字が大きいほど、印刷したときにきめが細かく美しい仕上がりになります。

- この設定は静止画の撮影時のみ有効です。動画のサイズについては、76ページをご覧ください。

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **【◀】【▶】で"画質設定"タブを選びます。**

3. **【▲】【▼】で"サイズ"を選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

- 画像サイズを選択している際に、画素数とプリントサイズを切り替えて表示します。プリントサイズは、選んだ画素数に対して、プリント時に最適な用紙のサイズを示しています。

	画素数(pixels)		プリントサイズ
大きい	6M※	2816×2112	A3プリント
↑	6M (3:2)	2816×1872 (3:2)	A3プリント ※横縦比が3:2になります。
	4M	2304×1728	A4プリント
	3M	2048×1536	A4プリント
↓	2M	1600×1200	L判プリント
小さい	VGA	640×480	Eメール ※Eメールで画像を送りたい場合に最適です。

※ Mはメガ(100万)の意味です。

- 「プリントサイズ」は、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。
- 本機の持つ画質を最大限に活かすために、できるだけ最大画素数(6M)で撮影することをおすすめします。なお、残り撮影枚数が少ないときや、より多くの枚数の画像を撮影したい場合は、画素数を小さく設定してください。
- "2816×1872(3:2)"を選ぶと、写真用のプリント用紙の横縦比3:2に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。

画質を変更する

画質とは、画像を記録する際のデータ圧縮率を表したものです。用途に合わせて画質を変更してください。

- この設定は静止画の撮影時のみ有効です。動画の画質については、76ページをご覧ください。

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **【◀】【▶】で“画質設定”タブを選びます。**

3. **【▲】【▼】で“[アイコン] 画質”を選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

設定内容		選択時の目安
高画質	高精細-F	画質を優先したいとき
↕	標準-N	通常の撮影をするとき
低画質	エコノミー-E	撮影枚数を優先したいとき

重要!
- 撮影した画像によってファイルサイズが異なるため、実際の撮影可能枚数と画面上の表示枚数が一致しない場合があります（24、182ページ）。